

日蓮聖人の世界　今、何をなすべきか

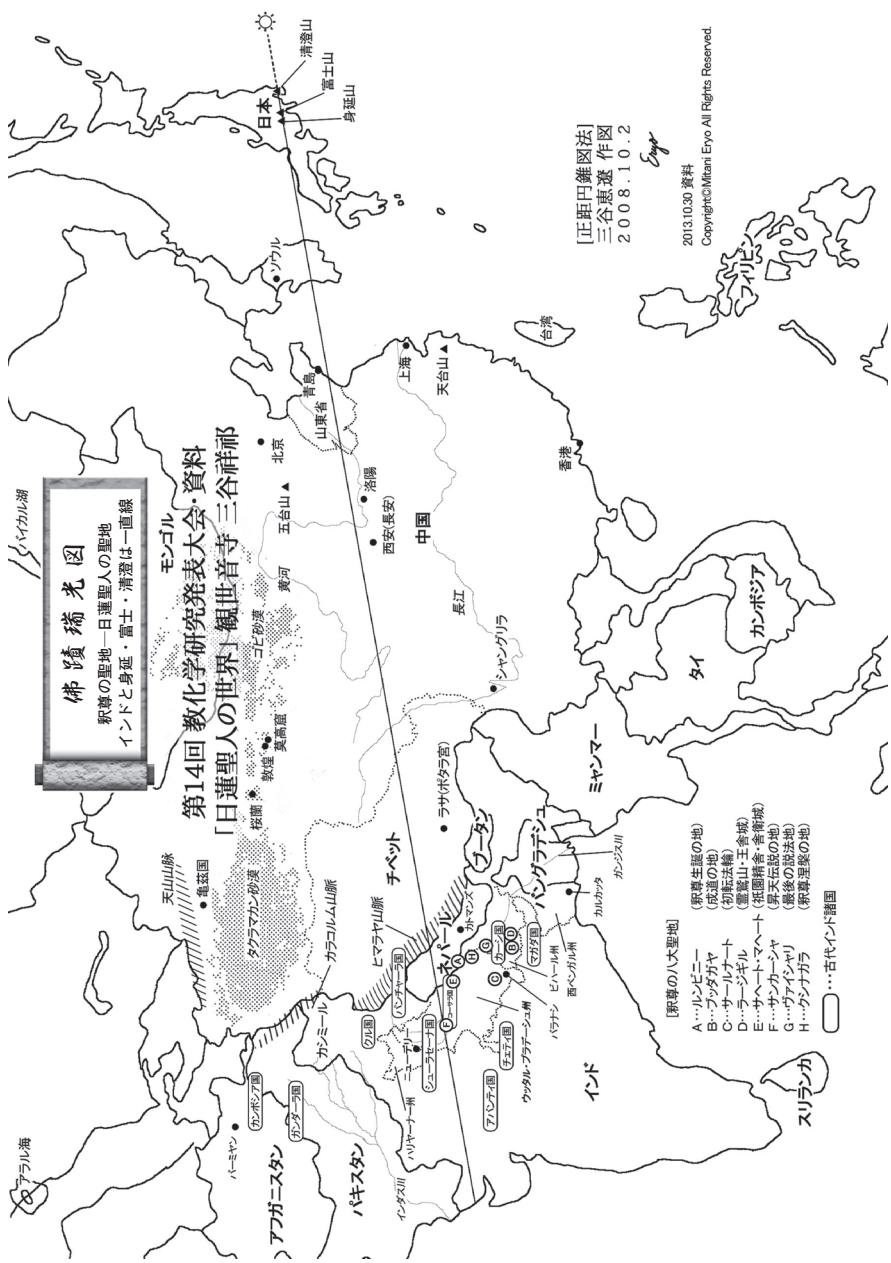
三谷祥祁

『今、何をなすべきか』という主旨に基づいた研究発表の機会を頂きました。

私たちはどのような未来を目指しているのでしょうか。どのような宗教界を希求するのでしょうか。私たちはいかに生き、いかなるころろざしを持って日々、精進しているのでありましょうか。この三つの課題を根底として『今、何をなすべきか』の論旨のためには日蓮聖人御書（御遺文）から、その指針を学ぶことが肝要であると考えました。

日蓮聖人は経典、日本史、中国史、アジア史、インド史などを示され、仏教観、世界観、自然観、国家観、人生観などを撰述されておられます。そこで私は御書から、日蓮聖人がご考察された日蓮聖人の世界を探求させていただきます、現実社会に対する姿勢を明示させていただきます。

第一のポイントは御遺文です。さまざまな国名や世界という語彙が見られます。どれだけの広い世界が展開するのでしょうかと思いました。日蓮聖人の世界観を知ることにより、私たちのスタンスも定まると考えました。御書を拝読しているだけでは相対的な理解が得にくいものです。教えを深く学ぶためにも、分野別に書き出しました。国名、世界の付く語彙を内容の骨子に沿って私の目線で選別させていただきましたと、五四個の語彙が確認されました。その結果を基にして、日蓮聖人が目を向けられた国や世界は「地理的世界」と「宗教的世界」とに大別でき、地理的世界は「日本国と外国」。宗教的世界は「神仏の国と説法の国」の四つの分野に分けることができました。



佛蹟瑞光図
 釈尊の聖地—日蓮聖人の聖地
 インドと身延・富士・清澄は一直線

第14回 教化学研究発表大会 資料
 「日蓮聖人の世界」観世音寺 三谷祥祐

[正距円雑図法]
 三谷惠彦 作図
 2008.10.2

2013.10.30 資料
 Copyright©Mitsui Eryo All Rights Reserved.
 Eryo

- 〔釈尊の八ヶ聖地〕
- A...ルンビニー (釈尊生誕の地)
 - B...ブツダガヤ (成道の地)
 - C...サーリナート (初転法輪)
 - D...ラージギル (靈鷲山・王舎城)
 - E...サヘートマヘート (社園精舎・舎衛城)
 - F...サンカーシヤ (昇天伝説の地)
 - G...ヴァインヤリ (最後の説法地)
 - H...クンナガラ (釈尊涅槃の地)
- ...古代インド諸国

御遺文の地理的世界

日本国（一六〇語）

相国（日本）、上野国、阿房国、对馬国、五箇国、筑前国、摂津国、真言の国、紀伊国、女人の国、法華経誹謗の国、遠江国、東海道十五ヶ国、下野国、讃岐国、安芸の国、豊前国、大隅国（ぐうしゅう）、豊国法師、日の国、国聚、出羽国、国務国宝、五国、近江国、関東八箇国、関東八ヶ国、こう（国府）、みち（陸奥）の国、するがの国、大和国、南国、六十箇国、吾国、自国、九ヶ国、六十八ヶ国、国賊、三災七難の国、何国、西国、国定、大火国、八箇国、扶桑国、生国、国道、九国、釈迦如来の国、時国、妙法蓮華経の国、仏法流布の国、国将、国母、護国、西海道十一ヶ国、南海道六ヶ国、山陽道八ヶ国、山陰道八ヶ国、敵国、所国、和国、本国、国敵、北陸道七ヶ国、東山道八箇国、東海道十五箇国、水穂国、大謗法国、山城国、伊勢の国、伊勢国、駿河の国、駿河国、二箇国、いみじき国、あはの国、甲斐国、鎮護国家、国難、関東の国、阿波国、隠岐国、隠岐の国、粟散国、中国（ちゅうぐらいの国）、国中、魂魄佐土の国、紙国、大国、国民、六十六箇国、六十六国、師檀違叛の国、さがみの国、相模国、佐渡国、佐渡の国、佐土の国、悪国、さどの国、越後国、武蔵国、小国、破国、破法の国、両国、伊豆国、南閩浮提大日本国、北国、諺法国、亡国、日本亡国之根源、我国、国恩、東国、山城国、国王、大小兼学国、国師、上宮太子和国、彼国、国々、神国、東北の国、権教国、三国、余国、日本国、仏国、法華経国、国宰、立正安国論、安国論、善神捨国、善神去国、天神捨国、大乘国、小乗国、遠国、他国、国家、国王、日本国亡国、諸国、五畿七道六十六箇国、安房国、国土、辺国、此国土、法華経流布の国、治国、其国、此国、国主、守護国家論、国土世間、東北諸国、飢たる国、国司

外国（一五四語） イは印度、モはモンゴル、Cはchina

国王、国王イ、国王（百済）、国王（月）、国王c、国主イ、国主c、摩竭提国イ、摩かだい（竭提）国、摩竭大国、摩竭国、東北諸国、天竺国イ、波羅奈国イ、諸国イ、中国c、辺国、国土c、国土（蒙古）、国師c、故国c、天竺

摩訶提国イ、此国イ、此国（大蒙古）、此国c、其国、其国イ、治国c、仏国（震旦・高麗）、仏国イ、国々（震旦・高麗）、他国（蒙古）、他国c、他国、十六大国、震旦国c、明匠国c、彼国、彼国イ、彼国c、彼国（亀茲国）、彼国（蒙古）、東北の国、罽賓国（ケイヒン国）c、毘摩大国、亡国c、蒙古国、仙豫国イ、国書（蒙古）、大蒙古国、月氏国イ、月氏烏婁奈国c、烏婁奈国、月氏七十箇国イ、尸那国c、彼国（百濟）、健駄羅国（ガンダーラ）、加湿弥羅国（カシミール）、百濟国、舎衛国イ、小乗国、国師c、大小兼学国、大乘国、国々イ、国（蒙古）、国（百濟）、国（亀茲国）、国（月）、国イ、国c、異国、隣国、殷国、二国（震旦・高麗）、隣国モ、颯耶国c、摩竭提国イ、摩訶陀国イ、粟散国、印度百三十余の国々イ、中国（ちゅうぐらゐの国）、胡国c、健陀羅国、大国c、大国、小国、唐国c、国中c、万国、三百六十余箇国c、他国侵逼難モ、高麗国、秦国c、天竺迦毘羅衛国（カピラ）イ、馬国、象国、天竺迦国イ、清涼国師c、安足国イ、から（唐）国、天竺三国イ、摩突羅国イ、亀茲国、波羅捺国イ、唐虞之國（トウグの国）c、大蕃国（チベット）、回鶻国（ウイグル）、月の国c、七十ヶ国、七十箇国イ、七十箇国c、月氏五十余箇国イ、四方の国イ、西国c、棄老国イ、新羅国、高昌・高麗一千八百余国、百三十ヶ国c、むこり（蒙古）国、漢土三百六十箇国、唐土三百六十箇国、身毒国イ、胡竹国c、天竺五十余の国イ、珊提嵐国イ、国道c、月支国、高麗六百余国、七十余ヶ国c、漢土九国、九国（漢土）、外国、月支漢土国、長安、支那、真旦、真丹、夏、周、春秋時代、戦国時代、新、晋、金、元、前漢、後漢、三国時代、五胡十六国時代、隋、北宋、高句麗、大唐国

御遺文の宗教的世界 神仏の国（一二八語）

八万四千の国、持国天、国々、大乘国、金耳国王、不孝国、殺生国、偷盜国、仏国、余国、不淨国土、法華経国、他国、那由佗の国土、那由佗の国土、国家、阿棋仏国、国、依報の国土、十方国土、法華経流布の国、国王、其国、故国、国、治国、此国、仏国土、諸国、国土世間、国主、仙豫国王、守護国家論、波羅奈国、多聞・持国、飢たる国、

如從飢国来、辺国、国土、富国、小乘国、貧国、熱国、寒国、鎮護国家、娑婆国土、八万国、百億の国、他国侵逼難、釈迦如来の国、那由他阿僧祇国、妙法蓮華經の国、はるかか、の国、万億国、八万の国、珊提嵐国（さんだいらん）、西国、国界、持国、三千大千国土、仏法流布の国、時国、破国、多の国、大国、法華經の敵の国、粟散国、中国（ちゅうぐらいの国）、己国、小国、両国、諸仏の国土、阿輸舍国、国中、隣国、依報の国土、無量国、有徳国、毘摩大国、仏法国、大小兼学国、神国、彼国、一閻浮提、浄土、極楽世界、雪山、蓬萊国、多宝仏宝浄世界、他方世界、三千大千世界、十方世界、四百万億那由佗世界、難信世界、千世界、三千世界、四百万億阿僧祇世界、無量世界、極楽世界、億千世界、五障龍女即身無垢世界、八方四百万億那由佗の国土、十方無量世界、諸仏世界、十三世界、宝上世界、億那由他「乃」世界、世界建立、十方無辺の世界、千世界、一切世界、何世界、有修羅王執持世界、一世界中、一仏世界、八世界、諸世界、華藏世界、法有世界、金色世界、西方世界、四百万億那由佗の世界、南方無垢世界、塵数世界、積尊の世界、誑惑世界、離垢世界、三千三百万億那由佗世界

説法の国（一〇二語）

時国、国恩、他国、遠国、去国、不孝国、国師、大乘国、貧国、善神捨国、国宰、余国、国家、十六大国、法華経国、西国、自国、仏国、治国、国、婆国、諸国、辺国、国土、此国土、阿棋仏国、十方国土、国王、国土世間、如從飢国、其国、此国、摩竭提国、国主、持国、仏法流布の国、師子国、百億の国、国将、八万四千の国、国母、唐虞之國（トウグの国）c、敵国、親の国、国政、国界、本国、国敵、所国、国道、不動国、自国、大謗法国、守護国界経、護国、鎮護国家、劫国、あまくに（天国）、国令、三国、粟散国、娑婆国土、草木国土、法華経の敵なる国、中国（ちゅうぐらいの国）、国国、两国、天台法華宗檀那の国王、己国、大国、小国、破国、二乗成仏の国、国中、万国、善国、悪国、飢国、隣国、異国、亡国、我国、依報の国土、無量国、有徳国、謗法国教機時国、阿弥陀仏の国、爾前国、光明国、仏法流布国、彼国、国々、三国、東北国、安樂世界、世界中、娑婆世界、仏在此世界、阿含経世界、離苦世

界、さばせかい（娑婆世界）、成道国

宗祖の地理的世界は日本国（一六〇語）と外国（一五四語）となり、日本の事柄は外国を対象に見立て示されておられるところにあります。宗教的世界は神仏の国（一二八語）と説法の国（一〇二語）となり、宗教譚と説法譚に分けられ、語られています。

心に感じるところがあり、お釈迦様と日蓮聖人の深いえにしを探索いたしました。

日蓮聖人が仏門に入られた故郷の清澄山。日本国の平安を祈り、自ら書写された法華経一部八巻を埋経の富士山。自然の美しさと厳しさの中で、九か年の歳月を過ごされた身延山。清澄山↓富士山↓身延山の三聖山の頂点を結ぶ西方はインドのウツタル・プラデーシュ州サンカーシヤの近隣へ直行しています。この州は古代印度コーサラ国のサヘート・マヘートの祇園精舎、舎衛城の遺跡。サルナート、クシナガラ、バラナシなどがある聖域です。日本からインドへ直行するこの奇瑞を三谷恵遼作図『佛蹟瑞光図』としてお配りいたしました。日蓮聖人の世界は釈尊の聖地、印度を繋ぐ妙綸で結ばれた現実の世界であることをお伝えさせていただきました。

第二のポイントは災害です。日蓮聖人ご当時の社会と私たちが暮らす二十一世紀の社会の問題は災害です。災害は暮らしを根底から揺さぶります。日蓮聖人が『立正安国論』を奏進された鎌倉時代と平成二十五年の今日とでは七五三年の開きがありますが、災害はいのちに直結する大問題であることに今昔変わるはずがありません。

史実に沿った資料に基づき、平成二十三年に発表させていただいた論文『日蓮聖人の災害記録―平成二十三年三月十一日 東日本大震災起こる―』に詳細説明と資料を当時、お配りさせて頂きました。

天変地妖、天変地異が我が国に及ぼした範囲は現代技術の測量、測定と昔の資料に基づく情報が具体性を帯び、明らかになってきています。たとえば、宗祖二十歳鎌倉ご遊学の最中・仁治二年四月三日鎌倉に起こった大地震は、マグニチュード七、津波襲来、由比ヶ浜大鳥居拜殿流出。正嘉元年初の大地震では宗祖・鎌倉三十六歳、八月二十三日

マグニチュード七・〇（七・五であり、三陸沿岸に津波襲来。鎌倉時代の災害地域が当時の都、京、鎌倉に競うように連発しているのが見受けられますが、都会ゆえの情報量の成果と考えます。天候不順からくる飢饉疫病は全国各地の生活を脅かしていたことを資料に散見します。

鎌倉期と平成期の、二つの時代に起こった災害の大きな違いは自然災害と科学災害に境界が引かれます。鎌倉期の主たる災害は自然災害です。今、人類に恐怖を与え続けているのは自然災害と科学災害の二頭立てです。科学災害の筆頭は核災害です。科学災害は、今の日本、今の世界が苦悩している大問題です。人間はわざわざ「無くしていくもの」と豊かになっていくもの」の矛盾した二通りの創造物を作り続けています。豊かな科学文明の反面、自然、いのち、平和、安全、幸せを無くしていく文明であるとも言えるでしょう。繁栄の科学は滅亡の科学でもあるのです。

国際環境NPO、グローバル・フットプリント・ネットワーク（GFN）は、二〇一三年の八月二十一日で、地球が一年間で再生できる自然資源を人間が使い尽くしたことを記録したと発表しました。人類は、空気、水、植物の再生サイクルを待たずして、残りの四か月後も変わらず、過剰な消費をし、地球環境にマイナスの結果を与え続けて生きています。地球サイクルに逆行し負担をかけた結果、自然の再生能力が低下し、干からびた湖、砂漠化したジャングルなど枚挙にいとまがありません。現在の地球人類がかかえている大問題を列挙してみますと、遺伝子組み換え作物と核のゴミ。人口増加と食料危機からくる飢餓（世界人口は七十億人を突破）。世界では、空腹と清潔な水が飲めずに暮らしている人々があります。地球温暖化と気候変動（寒冷と猛暑、豪雨と干ばつ）。原子力発電所から出る処分不能の核のゴミ。↑ 主導者も一般の大人も永遠の毒性を知った以上、責任がある大問題です。放射能除去に関わる人材の不足と被爆。水銀汚染による地球的大規模公害の現実。生物が呼吸する空気に拡散する放射能。大陸から飛来する水銀毒の食物連鎖。産業廃棄物の発泡スチロールや金属の塵などにより、呼吸器、脳、人体の損傷、DNAの汚染と破壊、無精子化などの科学公害。天変地異から逃れる安全性の脆弱。エネルギー危機などがあげられます。

昔の公害は地域規模でしたが、現在は世界的規模に拡大し、各公害が関係し合い多くの問題を引き起こし、混雑しています。

第三のポイントは実行です。日蓮聖人の世界観と時代的相違点を熟知した上で、私たちは今、何をなすべきか、私はどのように生きるのか、を思考し実行することが肝要であります。

日蓮聖人の御書から学び取った世界観は「地理的世界」と「宗教的世界」に大別され、さらに「日本国と外国」、「神仏の国と説法の国」の四つの分野に分かれていました。広い世界をたくさんの方の言葉に挙げられ、事象とお考えを示されました。膨大な遺文の中から、さらに偉大な思いを受け取ることが出来ます。その思いを正観享受し、社会の生き方につなげていくことが大きな課題であると考えます。『開目抄』に「一閻浮提にある雪山の大樹を仏の仏性に譬へたり。一切衆生をば一切の草木にたとへ、一切有情悉有仏性」。『立正安国論（広本）』に「一切皆有如来性故」、「一切衆生皆有仏性」。『撰時抄』に「一切衆生 皆有仏性」。『教行証御書』に「草木成仏有之」。『草木成仏口決』に「草木成仏」。『方法一如鈔』に「草木国土悉皆成仏とも、一切衆生即身成仏とも云也」が見えています。かくのごとく、万物一切皆有仏性、共存共栄の慈しみと思いを学ばせていただくことが出来ます。日蓮聖人の世界を検索思考させて頂きました結果、日蓮聖人の眼差しは廣大無辺世界を洞察され、且つ一方では、越後にて詠じられた『三沢御房御返事』の「おのづからよこしまに降る雨はあらじ 風こそ夜の窓をうつらめ」に、風の音、そぼふる長雨、流れゆく無常をじつと見つめられておられる点描の詠嘆を知ることが出来ます。日蓮聖人は、この世の出来事を經典に照らし、物事の道理を説かれました。先史人物の生きざまに因果を示されました。広大な世界を視野に置かれる中、自然現象の雨に説法歌を詠まれました。一木一草に仏性があり、一切衆生は一切の草木に喩える万物崇敬の草木国土悉皆成仏への尊い祈りを知る人々は信仰に安堵を得るのです。

鎌倉期と平成期の災害を対象とした違いの大きな特徴は地域規模から地球的広範囲に拡大したことでしょう。私た

ちの眼前には第三のポイントでお伝えしました諸々の大きな課題が立ちはだかっています。今、何をなすべきか、そして、私はどのように生きるのか、が問われています。人道的な眼差し、仏教者としての姿勢がこの世の明暗を分けるという責任と自覚が大切です。安らかな国土に安心して暮らせる平穏な日々を得るためにも、正しい教えを説き導くことが第一です。科学文明の豊穡な環境に生きる人たちがいる一方、ひもじさと疫病に苦しみながら、世を去って行く人たち。戦争による不作と飢饉、東北や各地の苦しみも同じくして、気候変動に拍車がかかれば全てがより困窮します。人口エスカレートの世界は、何かを、どこかで加減しなければ生きるためのエネルギーが不足になります。流通経済のアンバランスにより、飽食と飢餓の不幸が起っています。生きとし生けるもの、有るものすべてに仏性がある世界。この世を正常世界に覚醒させるお役目を期待します。正悪、幸不幸の現状を正しく見聞し、真実を伝え導くことが第一です。今、地球規模で起っている大問題、特に日本の苦悩と未来に目を向ければ、仏教者としてのスタンスがはっきりしたものになるのではないでしょう。それぞれの立場、環境の中で足元を見つめ、ご自分ができる最良のこと、「草木国土悉皆成仏の理念に叶う実行」こそ、今、何をなすべきか、の返答と致します。

二〇一三年十月三十日

於 日蓮宗宗務院

完